

平時に
確認

- 「自らの命は自らが守る」意識を持ち、
自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

●あなたがとるべき避難行動は？ <必ず取組みましょう>

ハザードマップ※で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※ ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ
→

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市区町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください

はい

災害の危険があるので、原則として※、自宅の外に避難が必要です。

例外
→

※浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

※土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

解説は裏面を
ご覧ください

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ
→

はい
↓

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい
→

いいえ
→

はい
→

いいえ
→

警戒レベル3が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう(日頃から相談しておきましょう)

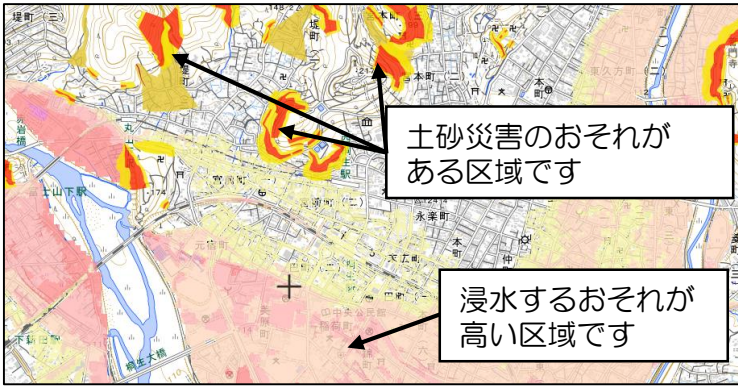
警戒レベル3が出たら、市区町村が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう

警戒レベル4が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル4が出たら、市区町村が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう

避難行動判定フローの参考情報

■ハザードマップの見方 <必ず確認してください>



凡例
<水害>
洪水浸水想定区域
(浸水深)



<土砂災害>

土砂災害警戒区域：黄色
土砂災害のおそれがある区域
土砂災害特別警戒区域：赤色
建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある区域



ハザードマップポータルサイト 検索

※ハザードマップの着色や凡例は市町村によって異なる場合があります。

■ハザードマップの見方 <もっと詳しく知りたい人向け>

・次の3つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

①家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていないか

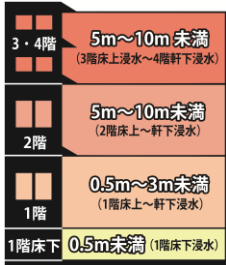


流速が早いため、
木造家屋は倒壊する
おそれがあります



地面が削られ家屋は
建物ごと崩落する
おそれがあります

②浸水深より居室は高いか



③水がひくまで我慢できるか、 水・食糧などの備えは十分か



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や、③浸水継続時間はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。なお、重ねるハザードマップには記載がありません。
※土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

■警戒レベル3や4が出たら、危険な場所から避難しましょう

■「避難」とは「難」を「避」けることです 安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません

■避難先は小中学校・公民館だけではありません 安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう

※ 緊急時に身を寄せる避難先は、市町村が指定する「指定緊急避難場所」や、安全な親戚・知人宅など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

※ 「指定緊急避難場所」は、災害の種類ごとに安全な場所が指定されています。(小中学校、公民館など)

※ 災害が落ち着いた後に、自宅が被災し帰宅できない場合には、しばらく避難生活を送るため、「指定避難所」に行きましょう。

※わからないことがありましたらお住まいの市区町村にお問い合わせください。

(参考) 内閣府防災ホームページ「令和元年台風第19号等による避難に関するワーキンググループ」
(<http://www.bousai.go.jp/fusuigai/typhoonworking/index.html>)